

## 米国クアルコム社と高速データ通信仕様の新規格 CDMA2000 1xEV-DO「Revision A」 に対応した基地局の共同開発で合意

日立製作所 情報・通信グループ(グループ長&CEO:古川 一夫、以下 日立)は、このたび、米国クアルコム社(QUALCOMM Incorporated、CEO:アーウィン・マーク・ジャコブス博士、以下 クアルコム)と、CDMA(\*1)方式移動体通信システムの高速度データ通信仕様であるCDMA2000 1xEV-DO(\*2)方式で、データ通信速度の向上やマルチキャスト(\*3)サービスなどを可能とする新規格「Revision A」に対応した基地局(以下 EV-DO基地局)を共同開発することで合意しました。日立は2005年度の製品化を目指します。

\*1) CDMA(Code Division Multiple Access):携帯電話などの無線通信に使われる方式の1つ。

\*2) CDMA2000 1xEV-DO:クアルコムが基礎開発した高速データ通信に最適化した CDMA 方式移動体通信システム。

日本では KDDI が 2GHz で 2003 年 10 月から、800MHz で 2003 年 11 月から商用サービスを開始。

\*3)マルチキャスト:ネットワーク内で複数の相手を指定して、映像などのデータを同時に送信すること。

「Revision A」は2004年3月に新しく制定された国際標準規格です。従来は最大2.4Mbit/sであった下りデータスループットを3.1Mbit/sに拡張したほか、マルチキャストサービス、パケットの帯域保証(QoS(\*4))を実現します。これによりエンドユーザーは、より高速なインターネット情報のダウンロード、高品質な動画コンテンツの同報受信、テレビ電話など、広帯域で多彩なサービスを受けることができるようになります。

\*4) QoS(Quality of Service):ネットワーク上で特定のユーザに対して一定の通信速度を確保するため、帯域を優先割当てをする技術。

日立とクアルコムは、1996年12月にCDMA携帯電話インフラシステムに関するライセンス契約、1997年10月に同端末に関するライセンス契約を締結しました。さらに、2000年1月にCDMA2000 1xEV-DOの前身であるHDR(\*5)方式携帯電話システムの共同開発を行うなど、これまで協力関係を築いてきました。

\*5) HDR(High Data Rate):クアルコムが開発した携帯電話網を使った高速なデータ通信技術。

日立はこれまで、KDDIが2000年7月から行ったCDMA2000 1xEV-DOトライアルシステムをはじめ、現在の商用サービス用EV-DO基地局の開発と納入をしています。日立のEV-DO基地局はオールIP(\*6)構成であり、汎用のルータ、サーバを使用し経済的にネットワーク構築をすることが可能です。制御装置はEV-DO基地局に内蔵する分散型アーキテクチャーを採用しており、従来センター側に必要であった制御装置の設置スペースが不要となるほか、EV-DO基地局増設時に必要な各種設定作業を簡素化することが可能です。

日立は今後、この「Revision A」対応のEV-DO基地局開発だけでなく、高速マルチメディア通信が可能なPDSN(Packet Data Serving Node)などのネットワーク機器やブロードバンドに対応した各種モバイル機器の開発を進め、快適なブロードバンドモバイル環境の実現に貢献します。

また、両社は今後も市場をリードするシステムを提供するため、協力関係をさらに発展させていきます。

\*6) オールIP:構成する全ての装置がIP(Internet Protocol)に対応しているアーキテクチャー。

### 他社商標等に関する表示

記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標または登録商標、サービス名称です。

### 本件に関するお問合せ先

株式会社 日立製作所 ネットワークプラットフォーム事業推進室 CDMAプロジェクト【担当:吉村】  
〒244 - 8567 神奈川県横浜市戸塚区216番地  
電話:045 - 862 - 7300 内線 4629

以上

---

このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。

---